

東近江市希望都市づくり行動計画策定市民委員会 第15回検討会議 会議録

■開催日時	平成22年3月23日(火) 午前3時～午前5時30分
■開催場所	東近江市役所3階 3A会議室
■出席者	
委員	土山希美枝(委員長)、今堀治夫(副委員長)、村田尚子、川島民親、澤田弘行、細矢昌孝、向井隆、堤吉男(欠席:岩崎恭典、大和田絹代、藤澤信照、井田さだ子)
策定員	久田哲哉、嶋村明美、福井健次、大辻利幸、古川光子、川島美子、井口みゆき、泉本了(欠席:久保文裕)
事務局	園田企画部長、国領企画部次長、都市経営改革課 西澤、企画課 平木、吉澤、加藤、西川
■議題	希望都市づくりに向けて

■会議録

(委員長)

15回目の検討会議ということで、延べにして数えますと、最初に打ち合わせをさせていただいてから16回の最後の委員会というふうになりました。

この間の皆さんのご議論によって、東近江市希望都市づくり行動計画がほぼ確定されました。これについては、既に何回か皆さまに見てほしいというふうに思いますので、特段何かこれはおかしいという改ざんがあったというようなことがあれば、あとでお話ししたいと思っています。

ここでめくっていただきますと、こちらの20ページに「付帯意見」というところが白紙でございます。ここは、私たちが希望都市づくり行動計画の議論をしていた中で、実はこうなんだよねとか、実はああなんだよねというふうに、マニフェストにはとどまらないけれども、まちづくりの方向性として、こういうやり方で行ってほしいといったことが、いくつかありました。27番などの項目、27番や28番、その項目などについて28番とかですね。それについても、そういったことがいろいろ出てきましたけれども、そういうことで、委嘱された内容はだいたいできたのだけれども、それに加えて、その後のまちづくりを進めていくときに、新しい方の資料ですが、ということで、ここに委員会として、こういうふうなまちづくりを進めてほしいというふうなことを書いて、市長にお渡ししたいというふうに思っております。

その意見の取りまとめを、だいたい4時半ぐらいまでには固めたいなというところでございます。

前回出ていなかった図が、こんなふうに出ています。26ページのところの図ですが、「希望都市づくり行動計画の具体化と具体化への取り組み」ということで、行財政改革、安心の三重奏・発展の五重奏というふうなタイヤの両輪である、これはタイヤの両輪なのか、持ち上げようととても重いローバールなのかは、見方によっては微妙というお話が、いずれにしても、これが両方の輪であるというふうなところは間違いないことだと思います。

それに対して、こんなふうなプロジェクトになりました。27ページ以降は、27ページ・28ページはそれぞれの項目について、実際にこういうことが動いていますということについて書きま

した。

それから、それ以外のものについては、方針に基づき総合計画の中で検討・具体化を進めるということで、矢印の担当課が関わって、担当課の中で私たちの意見を踏まえて検討を進めていって、それは総合計画の中にきちんと反映させてくださいということになります。

ただ、ここを見ただけではA・B・Cで特に区分されていないので、私、先ほどちょっと事務局にバックヤードでお話、後ろ側でちょっとお話をしていたのですが、できればここに、Aについては総合計画の中にしっかり織り込み、Bについては総合計画の中で検討していく、Cについては財政の状況と合わせて検討していくぐらいを書くと、具合が分かっていかなというふうに思います、ということになっております。

最後に何か一言というのがあると思うのですが、ちょっとそれは4時半以降まで置いておきまして、先に、それでは今後の東近江市のまちづくりに大事にしてほしいこと、あるいは重要な課題となることということを、ちょっとグレイストーン、意見の出し方を組みたいと思います。

お題は今後の東近江市のまちづくりに求められる、じゃないな、何て言いましたか。今後の東近江市のまちづくりの望むところと言いましたか。東近江市のまちづくりの基本的な方向性と言いましたか。求められることですね。題のつけ方でずいぶん内容が変わってきてしまいますね。

ということで、「こういうことを大事にして市政を運営してほしい」というのを、お1人ずつ、私を除いて12人12×2分ずつお話しいただくと、だいたい最初の30～40分が終わるという形なので、それをまず伺ってから、少しまとめていこうというふうに見ていただきたいと思います。

どなたからでもけっこうです。どなたから先頭にお話しただけの方おられますか。手が挙がったような、お願いします。

(委員)

いいですよ。2つ思うことがあるのですけれども、1つは、市長の方針に基づく施策の展開というのは、大変重い税金を支払っている住民には、すばらしい総合計画をすることも大切であるけ

れども、完全なやっぱり合意形成というか、説明責任というものが極めて大切であって、非常に重い。

これは考えていかなければいけないということが1点と、もう1つは、行政のスリム化というのは、極めて大切なことであると、そのことが、いろいろな委員会の経過の中でわかったのですが、ただ大切であるけれども、地域住民の声をいかに正しく聞いていくか、ということの問題。

その過程で地域のことは地域でやっぱり考えて実行する姿勢を大切にする。ただし、地域にそれに伴っての責任を持った体制で、今後まちづくりをしていかなければいけないというふうに、私は感じました。

(委員長)

地域も責任を持つてすることと、責任を持つてできる体制を、事業としても取り組む。ありがとうございます。次に、同じだという方、どうぞ。

(委員)

4点ばかり、ちょっと今の設定には少し外れるかもわかりませんが、聞いてください。

今回、このマニフェストをいろいろ検討してまいりまして、事業仕分けじゃないですけども、お目付をさせていただきました。マニフェストというのは、いろいろと勉強しております中で、つくられた過程は選挙目的のと言う言い過ぎかもわかりませんが、選挙に臨んでつくられたという格好のものでありまして、外から見て、外にいらっしゃるときにおつくりになったものである。それが今一生懸命やっていますと、外で見てつくられたものと、内に入ってから、それがどういうポジションであるのかという、少しギャップを感じました。少しじゃなくて、相当ギャップを感じました。

ですから、この辺のギャップを、従来から行政としてやって来られた中に、マニフェストで私たちがウエイト付けしたものをうまく組み込んでやってほしいというのが1つです。

それと、このマニフェストの中に欠落していたものがずいぶんあるかと思えます。これは市として基本的な計画で進められるものの中に当然入ってあると思うのですが、合併して東近江市になったこの市は、五個荘を中心とした三方よしの精神で、「商業のまち」という格好で従来から進んできたと思われまして、商業がメインに、表に出ていると思うのです。ですから、商業ということについて、もう少し踏み込んだマニフェストの項目があってもよかったのかなというように思っています、この辺については、もう少し従来からなさっております施策の中に組み込んでやってほしい。

それと、文化という匂いの項目がどこにも出てこなかったように思うのです。文化というのは、今回合併しまして、各旧の町・旧の市が、市民が持っておりますいろいろな生活の中で生きているものですから、日々変わってはくるのですけれども、文化とは心の形と申しますので、文化道をもっと高めていただいて、より

高い文化性のある市にしてほしいということでもあります。

それと、今回の件について、目玉と言うとおかしいですけども、目玉的なものが何もなくて、ずっとやってきた中で「希望都市をつくる」という、この「希望」という言葉がずっと私の頭のどこかに引っ掛かっておまして、これで希望ということが感じられるのだろうかという疑問を今も持っております。

ですから、従来からやってこられました施策の中に希望のあるようなものを見いだしていただいて、このマニフェストの中の項目と合わせて、うまく進めていただきたいという希望を持っております。

希望という言葉は、この中でいきましたら、何か目玉らしいものがあってほしかったなというように思うのです。具体的に言いますと、これはちょっと別に書いていただかなくていいのですけれども、例えば、極端な話、かつて廃村になりましたイバラガワ村というのがありました。そこは電気がなかったわけです。今ですと、お天道さまから電気をいただけますし、きれいな水はありますし、きれいな水があれば野菜だって室内でできる世の中ですから、本当のエネルギー、自然エネルギーで生活するというエコツーリズム的な村ができるのじゃないかと、こういう廃村茨川の廃村を復活させるとか、これは道でもいいのですけれども、そういうような何かちょっとアドバレーンがほしかったなという気がいたしました。

案外1つ1つの項目をやっておりますと、地味やなど考えながら今日に至っておりますので、希望ということを感じられるものを見いだしてほしい。

最後に、今回はとりあえず、市長さまの任期、3年先までというのをだいたいターゲットでいろいろ検討しております。次の任期7年目です。10年先を見越した計画というものに、今回我々が重み付けしたものが果たしてあっているのかどうかというのを大変疑問に思っております。

ネット世代とか、その辺がもっともっと進むのじゃないかというように思います。10年先を1つひとつの項目に対して掘り下げて、もう一度いつかの時点で、こういう重み付けをやっていく必要があるのじゃないかなというように感じました。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。すみません、私、書いているうちに5つになっちゃったのですけれども。

(委員)

ごめんなさい。

(委員長)

5つでよかったですか。

(委員)

いくつになってもいいです。

(委員長)

重み付けと、商業をもう少し踏み込んでよかったと。文化の話と目玉という話と10年後で5つですね。次、どうぞ。

(委員)

長い間いろいろとお世話になりました。初めての世界でございまして、政治というのは大変だなと、しみじみと思ったのです。

タベもちょっと最後のので考えていたのですが、この安心の三重奏、発展の五重奏は、なかなかつばななものだと思うのですが、これを考えてみるとすべて具体的な施策、私はどちらかと言うと理念的な生き方をする方たちでございまして、いつもここで何か一番欠けているのは何かなど。

この三重奏・五重奏というのは、たぶん市長さんが当選するための、極端に悪く言えば、市民にへつらうと言ったらおかしいのですが、1票ほしいというようなことで掲げられたマニフェストだと思うのですが、ただここで一番欠けているのは、先ほど細矢委員が言われた文化とか、そして一番欠けているのは、私は教育だと思いました。

教育の問題が何も出てきていない。例えば、中学までの医療無料化とか、給食の提供とか、給食のところで、この前向井委員がちょっとこれもなかなか難しい問題があるということと言われたのですが、例えば、給食というところで何か強い子がすべて自分の好きな物を取り上げて、どうのこうのという話がちょっとでてきたのですが、食べ物を食べるときというのは、一番教育的な配慮というのですか、こういうものが非常に大きな影響が出てくるものだと思うのです。

そういう観点からしましても、これからの希望都市というのは、すべて教育というものに対する姿勢というものが、これからは最優先事項になるのではないかなということを思います。それがちょっとすべて理念的じゃなくて、具体的な形でばっかり出てきて、例えば、全中学校で給食を提供というのがあるのですが、お母さん方に対しては楽かも知れない。しかし、子どもの教育ということに関してはどうなのかなと、もう1回ちょっと考える必要があるのではないかなと、いろいろ感じるのですけれども。

まず、そういう点がかかなり欠落していたのではないかなというような気がいたします。もう少し、私も最初にあれしたのですが、政治哲学というのですか、東近江市としての近江市がこれから生きてための1つの政治哲学というのですか、行政哲学というのか、哲学することですね。そういう大きな核となるものを持っていただかないと、何か世間一般の他の行政機関と同じように流されていくのではないかなというようなことを感じます。

逆に言いますと、非常にこれからの東近江市というのは、やりがいのある市となっていく可能性もあるわけで、その点が1つあるということと、もう1点は、この行政のやっておられることを、いかに住民あるいは市民レベルで、市民レベルというとおかしいですが、市民にわかりやすく説得していくか、あるいは協力してもらったり、いろいろな相互のキャッチボールできる1つの文章構成というのですか、合法的な手腕というのですか、

手段というものをもう一度、これは律令国家成立以来、千年以上も続いてきた文章構成かも知れませんが、このあたりを打破していただいて、少し暖かみのあるというのですか、「わかりやすく暖かみがあり、かつ理解しやすく、何か勇気を持たせるような方向活動」というのですか、これが非常に重要なんじゃないかなというような気がいたします。

こういうものを一般のものが見ても、あれっというような感じで、この内部のものはよく勉強させてもらってわかるのですが、外に向かうと、さて、これどうかなというような気がいたしますので、この2、3点が、私の感じた意見でございまして。

(委員長)

ありがとうございました。念のため、ちょっと補足させていただくと、首長は、教育の内容に踏み込んではいけません。

(委員)

何がですか。

(委員)

政治家とかは、教育委員会がありますし、教育委員会は市長から独立していなければいけなくて、市長自身が教育の内容について、ああこうだと口を出す、基本的にはしてはいけないことになっているのです。その難しさはあるかなと。

(委員)

人材を育てると、だから、そういう壁もやっぱり打ち破らないといかん時は打ち破らんと。

(委員長)

それは打ち破れると。

(委員)

市長自らが、だからそういう意味でのことを言っていますので、冷たく分けてしまわないで、いかなるものでも教育とは関係してくるのですから。

(委員長)

人づくりという言い方で、幅広みをとらせていただいていたので、人材育成と人づくりということで、逆にそれをやると教育委員会から市長の政治的な介入だというふうになるところではあるかなというふうに思いました。そこだけ少し補足させていただきたいと思います。文章の表現については、おっしゃるとおりのところがあります。

ほかにも、次の方、そろそろ久保さんとかいかがですか。名前を出さないようにしますので、職員から思うことをポイントに。

久保

(策定員)

ご指名をいただきましたので、ちょっと年明けから、ちょっと

の業務の都合で確定申告の受付をさせてもらっていて、長らく失礼していました。すみません。やっと出席させていただけるようになったので、もう最後の回になったのですけれども、夏ぐらいからこの委員会に出席させていただいて、こんなにたくさん、何て言うのですか、台本のない議論というのですか、が、された検討委員会というのは少なかつたのじゃないかなというふうに率直に思っております。

今までの計画というのは、とにかく何々やります、やりますという計画だったのですけれども、この計画の中では特に何々を減らしますとか、やめますとかというのが議論の中心の1つになってあつたのではないかなというふうに思っています。

そういった計画の策定については、もうフィナーレを迎えるのですけれども、希望都市づくりについては、今これからはプロローグ、これから始まるときなので、よく計画というのは計画倒れになることも多いのですけれども、これだけ議論をしていただいた賜物のこの計画を、難しい内容も確かに多いと思うのですけれども、職員としては着実に進めていけるように、そして、1市民としても多くの市民の皆さんと一緒に進めていけるように取り組んでいきたいなという思いを、決意を改めてしたというのが1つです。

何が希望都市かという、やっぱり子どもたちの世代がずっと笑顔で暮らせることが最終的にはそうなのかなというふうに、これは最初から思っていたことなのですが、そんなまちになるように取り組んでいきたいという改めて感じたところでございます。

(委員長)

ありがとうございます。次の方。

(委員)

今回参加させていただいてまして、中小工業の切り口からということで参加させていただいたのですが、やはりマニフェストには、その商工業に関するところというのがやはりかなり少なく、なかなかそちらの方面に発言させてもらえる機会が少なかつたので、この機会にちょっと言っておこうかなと思ひまして、前回もちょっと言ったのですが、やっぱり納税という税金に関して産業が、経済が疲弊すると税金が少なくなる、今かなり市内の経済がよくない、地域経済がよくない状況になってきているという中で、皆さん必死に税金を納めているということは、行政の方は重々理解していただきたいということと、それと経済政策であつたり産業政策であるということは、即、まあ言ったら税収アップにつながってくる。マニフェストにないところではありますけれども、唯一税収を上げられる可能性があるところであるということと、経営努力をしますか、販売努力と言いますか、うちの道理で言うと、そういうことが収入アップにつながるわけなので、行政の方でも、この経済政策・産業政策というのは税収アップにつながるということを、やっぱり意識していただいて、地域経済についても取り組んでいただきたいなというふうに感じています。

それともう1点、もっとぐっとした感じのことなのですけれども、里山というのは皆さんよくご存知だと思いますけれども人の手が入ることによって生物が多様化されて、環境への対応、変化の対応ができるという話なのですが、まちというのは、やっぱり行政の手が入ることによって、生活や様式、総合文化も含めて経済も含めて多様性が持たれるわけであつて、いろいろな変化に、高齢化であつたりとか、教育の問題であつたりとか、いろいろな変化に対応できると思いますので、あくまでも行政としてまちの多様化のために、まちにどんどん、どんどん手を入れていっていただきたいなという。

そのためには、市民である我々も、骨身を惜しまず協力させていただきたいと思ひますし、ここがやっぱり一番の協働の根本的な基になると思ひますので、まちの多様化のために行政と市民の連携をというふうに感じました。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。もう一方。

(策定員)

思うのですけれども、やっぱり言うてくださったように、人材育成というのはすごく大切で、例えば、まちづくり協議会さんとかでも、今すぐがんばってくださっていても、その年代がお歳を召されていくにしたがつて、次の人がないかということではなくて、やはり皆さんががんばっている間に、次の人材を育ててくださることが必要活性化になると思ひし、それは同時に市役所の中でも、あんなふうに年齢構成を見せられたときに、下の人をどうやって育てていくかということも私たちももう少し努力をしないとイケないなということとをすごく感じました。

それから、市民の合意という意味では、何か12万人いたら12万人の思いがあるわけで、すべての人が確かに、この計画に合意はされないと思うのですが、やはりそういう意味でいろいろなことで市民さんとお話できる機会というのを、私たちは一番健康センターにいますので、そういう意見をもっと上にあげやすいような仕組みづくりとかもこれからは必要じゃないかなと思ひました。

それから、竜王町はキャッチフレーズとして、私はどうしても健康方面にしかあまり興味はないのですけれども、竜王町は「住むだけで健康になるようなまち」、そういうような感じのキャッチフレーズで、と一緒にお店を登録とかされて、何かそこで健康のレmpiを渡したりとかをやっておられるのですけれども、ちょっとそういうような一体となつたいいキャッチフレーズがあつて、みんなが関われたりするという、そういうようなまちづくりを、市としてはちょっと大きすぎてというのであれば、町戸単位で何かできるように、私ももうすぐ向井さん側に入れていただいてそういう活動ができるようになりたいなと感じました。

(委員長)

ありがとうございました。次の方、

(委員)

今言われた部分と同じ部門で、障がい者の方から立場のほうで出させてもらったのですけれども、この中に、その中で障がい者も高齢者も教育、子どももみんながやっぱり原点は1つだと思うのですけれども、生き抜く力とか、その力を養うのがやっぱり子どものときからとか、そこら辺が教育とか、先ほど言われていた給食の問題とか、全部関わるのですけれども、障がい者にしろ高齢者にしろ、生き抜く力を、全部個人個人がやっぱりがんばってつけていくという、うちは娘も言葉もないし、真剣にできていませんけれども、目と顔でここにことして隣りの人から食べものをもらおうと、山下清ですけれども、おにぎりさえもらったら、私は生きていけるからやっぱりこっとするように育てたいわと思って、それでそういう育て方をしてきたのですけれども、やっぱり可愛がってもらえたら、お菓子の1つでももらえるだろうと。私がいなくなっても、この子は食べるには困らないというそういう障がい者でもそういうようなことと、年寄りでもそうだと思うのです。

高齢者はこれからどんどん増えていきますけれども、やっぱり力をつけるというか、最後の最後まで生き抜く力というか、その辺で、先ほど言われた町協の中とか、どここのところでも何が足りないかというか、子どもの分野にしろ、教育の分野にしろ、障がい者にしろ高齢者の問題にしろ、足りない部分をやっぱりもっと行政の人と、それから一般市民のものがもっともっとコミュニケーション図って、そこを行政が足りない分を、どうやってしたら手助けできるか、先ほど誰かも言われたように住み分けですよね。

まちでできることは自分たち、個人でできることもやっぱり責任を持ってするということは大事なことだと思いますし、その辺で何もかも助けてくれ、助けてくれじゃなくて、やれることは自分でやらないとだめ、高齢者も障がい者も私は強くたくましく生きないとだめという、そこら辺で、でもやはり、建物もほしい、何もかもいろいろないものもいっぱいあると思うのですけれども、その中で何が足りないかということも、もっとコミュニケーション図ってその辺を行政の方できちんと見極めてほしいというか、そこらの辺の問題も希望都市の中にやっぱりマニフェスト全体の問題。

1つじゃなくて、わからないのですけれども、全部1つずつの項目もみんな障がい者だけじゃなく、高齢者だけじゃなくという、子どもからやっぱり、この東近江に生まれた限りは、みんなここで歳をいっていくのだったら、もう生き方は皆一緒だと思うのですけれども、そこで、その時々々に足りない部分を、それを何かと見つけていく、お互いに見つけていく、やっぱり足りないことを言っていけないとだめだし、それで行政も聞いてもらわないとだめだし、自分のできることはやっぴいかなないとだめだしという、その辺をもう少しきちんと整理していったら、何かできるか、何がしなくてはならないかがわかってくるのではないかなと思います。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。泉さんはどうですか。

(策定員)

合併して5年ぐらい経ちますけれども、成熟した都市と言われるところとは、まだやはりかけ離れていると、これは当然のことだと思うのですが、そういう成熟したまちへいくという、もうそういう段階に来ているのかなと。そういうためにはどういう規模なのかなと、どういうお金の使い方をしていかなければいけないのかなということを考えていかなければいけないのかなというふうに思います。やっぱり、暮らしだと思しますので、豊かに暮らせるというか、普通に暮らせるというか、そういうまちにしたいために、どうしたらいいのかということを考えながら、希望都市になれるように1市6町の集まりではなくて、東近江市として新たなステップをしていく時期にきたのかなと。そのためにはどうしていかなければいけないのかなとすることを考えることだというふうに思いました。

(委員長)

ありがとうございました。委員、次、そろそろいきますか。

(委員)

何回も欠席がちで申し訳なかったと思います。すみません。

皆さんのおっしゃっていることは、どれにも頷けることばかりで、上手にまとめていただいているのですけれども、やっぱり、何と云うか、一番は希望都市という言葉どおり、皆さんに一番わかりやすくキャッチフレーズ、さっきもおっしゃいましたようにキャッチフレーズを掲げていただいて、1つにまとまって進んで行くみたいな形をとっていただいたほうが、子どもからお年寄りまで、東近江市はこれに向かって、今私らはやっているのだと、いろいろな立場の方がおられると思いますので、いろいろな立場で、福祉の立場、商業関係の方とか、教育の立場から、いろいろなことで皆さんがそれに向かって、私たちが今は何ができていけるのか、行政にはこういうことができるのか、いろいろな形でみんなが1つになれるような形でいけたらいいのと違うかなと思います。

難しいことは言えませんが、先ほどの納税の話ですけれども、やっぱり経済が回らないと地域は回っていかない。そういうことは、子どものころからみんなにやっぱりそういう義務、納税の義務というのがありますし、そういうこともちゃんと教えてあげて、だから世の中はこのように回っている、そういう仕組みですね。何につけても仕組みがあると思うのですけれども、全部そういう、このためにはどういうことがあって、こういうように回ってきているのかということも、それぞれの立場から皆さんが今後伝えながら、まちづくりに参加していただきたいなと思います。

(委員長)

仕組みを使いながらというのは、例えば、経済のところの人は経済の仕方とか、例えば、自治体とかいろいろなまちづくりに関わっている人がまちづくりをととか、そういうことを、子どもや周りの人に伝えていこうという、そういうつながりですもですね。

(委員)

学校でも何でも、地域の人が、先生じゃなくて、ガツといえると思いますし、とりあえず知っている者が、知っていることを確実に伝えるというのが大切ではないかなと思います。

(委員長)

子どもとか人格者に限らず、周りの人に。

(委員)

地域でもいろいろなところに。

(委員長)

ありがとうございました。まだの方、どうぞ。

(委員)

先ほど、策定員が職員さんの立場でおっしゃいましたし、私もそのようにかねがね持っているのですが、1市6町が合併して、まだ数年しか経っていませんけれども、やっぱり市民のパワーを1つにしてまちづくりをやっていく、そういうことが求められているし、求められてくるわけですが、まだまだ市民の皆さん方が、12万市民が1つになれていない。

先ほどから言いましたように、それぞれの1市6町のバリアが、みんなお互いを感じていながら、ずっと日々来ているように思います。やっぱり市民の心を1つにまとめて、新しいまちづくりをしていくということが、非常に大事だと思います。よく言われるのですが、合併した年に、オギャアと生まれた子が成人になるころにならんとなかなか難しいということをよく聞くのですけれども、そうであればあるほど、やっぱりここはひとつ、みんなが努力しないとイケないなど。

特に、市のあらゆる行政の展開をされるにあたっては、常にそのことをやっぱり頭に置きながら、市の職員の皆さんも、委員の皆さんも、市長さんのおかげですけれども、考えていただくと大変よろしいのじゃないかなと。やっぱりどうしても、みんな旧の市・町に凝り固まって、東近江市民という自覚なり、認識なりが12万市民1人ひとりにまだまだ定着していませんし、無理な話かもしれませんが、やっぱりそれが何よりも私は大事やないかなと思いますので、やっぱりそういうところにみんなが目を置きながら、市政運営、市の行政各案を進めていただくと、少しは形になるのでは、もっともっと時間が短縮できるのではないかなという感じがするのです。

(委員長)

市の職員の方でまだお話をされていない方は？そろそろかなと

思っているのですけれども、どちらかで。

(策定員)

私、ちょっとすごく緊張し過ぎていまして、全然話がまとまらなくて、また1番最後になったらどうしようと思って、もう心臓がドキドキして、今みんなに心臓を見ていただきたいぐらいです。

まちづくり、感想みたいな形になってしまうのですけれども、希望都市づくりに参加させていただいて、一番に思ったことは今までの総合発展計画でしたら、行政側から本当にしていかなければあかんことを、大まかなことを、これとこれとこれ、じゃあこれをお願いしますね、皆さんどうですかみたいな、そういう形の形式だったのが、まったくこの策定委員会では、その様式が違っていまして、私自身がとまどいました。

自分の意見をしっかりもたなければいけないということもあるのですけれども、そういう意味では総合発展計画の中でせっかく皆さんに出していただいた意見を本当にどれだけ反映できるか、また反映した中で住民の皆さんにどれくらい進めていけるかというのは、すごい市役所に働く1職員ですけれども、これからがんばっていかねばならないことだなということを思いました。

それと、例えば、合併して「鈴鹿からびわ湖まで」とよく言われますけれども、本当に、その利用地域というところは、風土とか生活様式とかも広がった分、やっぱり全然違うと思います。それでもやっぱり東近江市になって本当によかったなど、みんなが、今住んでいる者も感じたいし、これからの子どもとか、生まれてくる人とか、例えば移り住んでくる人が、今後地域で、国に頼らず自立していけるというか、そういうような何か考えていかないとあかんなど思いました。その第一歩が、今日のこういうような会議かなと思いました。

(委員長)

ということでもいいでしょうか。

(策定員)

希望都市ということで、あげられていたマニフェストですが、実際やっぱり財政面のことであるとか、行政の職員の人数のことであるとか、聞かされると、すごく行政にいる私は全然希望じゃないしという感じで思っていたのですが、でも、それぞれ項目があって、具体的に書かれているようだけれども、でもこういうやり方ですという、この中にやり方が書いているわけでもないのです、そのやり方は自由なので、その辺はやはり行政だけじゃなくて、市民さんも一緒になって取り組んでいく。そして、自分たちで希望都市にしていこうということが大事だなと思いました。

そうしていこうとすると、ここの今の28ページに、答申を受けた今後の対応というところで、それぞれ課が書いてあるのですけれども、その課以外のところも、どんな施策であっても関わってくると思うのです。なので、私はすぐにこういう課の名前を

見て、自分のところがなかったら関係ないわというように見るのじゃなくて、何か関わることがあるのと違うかなというふうに見て、ちょっとでも、あっ、こことリンクしたらいいのと違うかなというアドバイスが、市民さん向けに私たちができたらいいかななど。そうすることによって希望都市につながっていくのじゃないかなというふうに感じました。

(委員長)

ありがとうございます。皆さんからたくさんいただいて、たくさんあるのでどうしようかな。スペースはそろそろ足りなくなってきましたが、できるだけちょっとスペースを何とか。

前半の部分を振り返りますね。前半の部分のところでは、まちづくりの具体的な内容について、いくつかの指摘がありました。まず、商業、それから他の委員さんからも、商業商工業の項目がマニフェストの中ではちょっと少なかったよね、もう少し踏み込んだ発言があってもいいのではないかと。委員のおっしゃる言い方で、やっとな手をいれていくという言い方ができました。

教育というのを人づくりとか人材育成という言い方にちょっと置き換えさせていただきたいと思いますが、人材育成や今後のまちや地域を担っていく、ここもそうですね。市役所あるいは地域もそうですね、地域も市役所も次の世代を育てることや、文化も旧市町にある文化と、それを1つにまとめて、まとめてというか、文化の違いを、しかしそれ自身は東近江市の文化施策としてどう生かしていくかというようなものについては、マニフェストの項目自体がちょっとあがっていませんでしたよねというご指摘がありました。そのあたりは、項目としてあがっていないという話です。今緑でまわってきたところがだいたいです。

施策としてもうちちょっとあった方がよかったのじゃないかなということでしたね。だいたいマニフェストの具体的な中の事業ができました。

それから、やり方についての表現がありました。委員がおっしゃられた合意形成とか説明責任、合意形成を進めることにも、こういう形というような市政の運営をしていくべきだと。

それから、政治哲学みたいなものをきちんと示しながら、それはたぶん今日の夜に聞いていただける、市長はきついや市民参加と情報公開ですとおっしゃるとい部分があるかなと思うのですが、でもそれならそれで、やはりそれを見せながら、こういうまちづくりをしていくのですよということが見せていくことが必要だというふうなことだと思いますし、それは別のところで委員がおっしゃっていた「こういうまちづくりなのですよ」という1つのキャッチ。

そうですね、策定員さんも竜王とかは「住むだけで健康になるまちづくり」ということで、みんなが関わるまちづくりのコンセプトをおっしゃっていましたが、みんなが関わるまちづくりのコンセプトを1つ提示して、それを政治哲学という、それをたぶん言い換えると政治哲学ということになるのですが、そういうことを見せて、そういうことを示していくということが必要では

ないかという言い方をされていたと、そういう提案が1つありました。

合意形成と説明責任、そのプロセスの中では、当然合意形成と説明責任も関わってきます。この同意形成や説明責任というのは、後ろまためくってもうちょっと指摘しようと思いますが、委員さんがおっしゃっていた市と市民の間で何が足りなくて、それを補うにはどうしたらいいのかというのを、つまりコミュニケーションが足りないとか。

それから、委員さんがおっしゃったように、ひとつになっていくという、そのためのやり取りとか、そういうところの全体にかかってくる意味、簡単に言いますと、もっとやっばりいっばいしゃべりましょうと。1つのまちにしていくというのならば、それにたぶん伴う何か具体的な課題があったときには、お互いにそれをどうやったら補えるか、何が足りなくて、どうやったら補えるか語りましょうという、まちづくりのコンセプトを語る時には、じゃあやっばりどんなコンセプトでどんなやり方でやっていくかということ語りましょうと。

1つのまちになってつくっていくということは、やっばり私たちの1つのまちというのは、どういうことなのだろうと、市民の力を1つにしていくというのはどういうことなのだろう、そういう今具体的に出てきた課題だとか、こういうことに取り組もうだとか、それにはどうやって取り組んだらいいのだろうねというふうに語らって、それをもとに実際にやるということになっていくのだろうと思います。

それが、委員さんがおっしゃられたところの2番目の行政のスリム化と地域住民の声をきちんと反映させていくということとを両立するために、地域がすることは地域がするのだけれども、それを丸投げで地域に任せよということじゃなくて、お互いの役割分担をきちんとして責任を持って進めていきたいと思います。

ということで、やや前半の方は簡単にまとめさせていただいて、後半です。子どもたちが生き抜く力、まず養っていく。それは地域だとか町協だとか、いろいろな主体と関わり出てきますが、その足りない部分、見つけて話して整理するとおっしゃられてされている。見つけて、話して、整理して、役割分担としてというふうにおっしゃられていたと思うのですが、やっばりそのプロセスなのだろうというふうに思います。

それは具体的に、じゃあどうやって具体的に、東近江市という1つのまちづくりを進めていく中で、市民と行政との関係をどうやってつくっていくかということが、たぶんおそらく後半の話に出てきたのだと思います。それが今申し上げたことですね。

委員がキーワードでおっしゃったのが成熟という言い方なのですけども、こういう規模でこういう資源があって、こういうまちだよという、じゃあ、それはこういうまちだよという、1市6町の認識ではなくて、1市6町がバラバラで寄せ集まっていたということでは、それはむしろ1つの市として考える、それを考える時期にきているのですよねということ。

それから、委員がおっしゃっていた「伝え合う」という、今掘

委員さんがおっしゃられた1つのまちとしてのまちづくり、時間がかかる分、努力をしたとおっしゃっていたのは本当にそのとおりだと思って、今でも20年経っても振興計画つくるときに、各地域の要求を旧の自治体の枠組みごとに集めて、寄せ集めるという総合計画をいまだにつくっているという自治体もあって、20年経った場合、1つのまちのあり方というのを、1つのまちにしていこうという努力がなければ、やっぱりそれはももとの塊で残ってしまっているのはあるはずですよということ、たぶん努力が必要ですが、この努力をどうやってしていくのかというのは、こうした課題や、こういうまちづくりをしていきますということで、集まって語って、それを何か展開していくということなのかというふうに思うし、皆さんもそういうことをお話されていました。

行政として見たときのお話も、とてもいいポイントがありました。ここの委員会、いろいろな方が、ここでも策定員さんもおっしゃっていただきましたけれども、これまでの委員会だと、要するにあんまり話さないとか、あんまり議論しないで、自分のところの提案があって、それを証明するというスタイルが多かった。こういう委員会のものがないとかというふうにおっしゃってくださったり、最初のところで、ここは台本のない議論、しかもやります、やりますということだけではなくて、何をするかみたいなことで議論できる場ということを言われたのですけれども、実際にいろいろな要求があるものを、要求を全部取り込もうということではなくて、それじゃ何をお互いにやってもらいましょうかみたいなことを、議論できるような場というのは、市民と自治体の間に必要なんだということは、特に23番に。

どこでしたか。27番のところでできましたよね、まち協がやるのか、自治会や町内会のレベルがやるのか、それともほかの主体がやるのかという話をしたときに、当然、地域地域で違う、それはやっぱりその人たちと話し合っ、お互いが何をやるのかということをやっているかといけないうし、それをやり取りし合うことを進めていくことは、やっぱり継続的にされていくことなのだろうと、そういうことを話す場が必要だという話がありました。

それから、23番のときに人件費じゃなくて、建物の話がでました。建物をどうしますかという話をしたときにも、その建物をじゃあ新市で一体としてみたときに、やっぱりつくった経過として、すごく必要だなという訳でつくった訳ではない建物もあるという率直な表現は驚きましたけれども、そういった中で新市としてみたときに、どれがいつ、どれぐらいのことができて、どれがいつ、どれがしょうがないのかということについては、とにかく話し合う機会を持つべきだという話がでましたが、これもこういうふうに行政が台本を書いて、はい、これでいってくださいというタイプの委員会ではなくて、じゃあどうしましょうかというようなタイプの委員会というのが必要なのだということなのだと思います。だからこそ、そうやって議論した結果だからこそ、逆にそれを生かさなければいけないという重みもでるといふことなのかなと思います。

策定員さんがおっしゃられた環境としては、非常に何か希望があるのかなというふうな感じはあるのだけれども、やり方によって希望の持てるやり方というのを見つけていくのが希望都市となるのではないかなと。

そこでおっしゃられていたのが、今回あんまり出てきませんが、ほかの担当課とのリンクという言い方をされていたのですが、行革のところ、やっぱり行政の仕事の仕方も変えてもらった方がいいことがあるよねというのが出てきました。例えば、「本庁の方でないといけません」というのを、「本庁の方に聞かないとわかりません」というのを、それでいいのかと。そもそも対応としてそう言わなくてもいいのじゃないかという話になりました。行政の仕方、人数が少ない中で、支所という機能があることを前提にする中で、どうやって役所の中で、これまでの仕事の仕方をしていたら、当然人も減りますし仕事も増えますから、やっぱりそれはパンクしてしまう。そうではなくて、行政の中の仕事の仕組みをどうやって能率的に変えて、そのことが市と市民の関係というのを掘り起こしていくための仕組みの改革をすることが必要なんだというふうに思いましたし、そこは行財政改革の推進のところに出てきたというふうに思います。この大きな26ページのところに、行政の仕事の仕方、組織のあり方の改革というところです。行革というのは、単にコストカットだけではない。単にコストカットだけではないのだという言い方は、退職者不補充のところに出てきました。退職者不補充のところでは、人件費とかは、人件費の問題は大変だけれども、退職者不補充ということではなくて、むしろちゃんと組織の次を担ってくれる人を雇ってもらわないと、あるいは地域で熱心に動いてくれる若い人を雇ってもらわないといけないうじゃないかと、その部分はやっぱりちゃんと出すべきという議論はあったと思います。

ということで、1時間なのですが、もう一回り、それを聞いて補足というふうにいきたいと思いますが、今お話したことをちょっとまとめようと思いますので、どちらか消していいですか。

(事務局)

今のを消していただいて。

(委員長)

わかりました。じゃあこちらを消して、今私がお話したような項目をまとめて書きますので、皆さん、5分だけちょっと息抜きしていただいて、ほかの人が言ったことをゆるゆる思い出していただいて、補足のコメントを皆さんにつけていただきたいなと思います。

(まとめ中)

(委員長)

ということで、皆さんからご議論いただいた内容を、無理やりちょっとまとめてみましたが、あまり無理やりすぎたらちょっと違うというふうに言ってください。

まず、希望都市づくり計画の中身のところで、先ほど申し上げ

たこの辺りのことについて、やや薄い部分があったが、個々必要であろうという話だと思います。市長さんにしても全部考えていないというわけではないでしょうけれども、具体的な施策や、しかし具体的な施策の背景として、これを大事にするという姿勢も含めて、その辺りについては、もう少し市政として既存の市政で生かされている部分もあるので、今後の総合計画なりのところで、特に重点的に取り組んでほしいというふうに、委員会の中でも声が出ましたと言える部分かなと思いました。既存の市政。

市と市民の間をつなぐ、あるいは市と市民の関係を変えるのかもしれない。既存のまちづくりの形、関係を変えるのかもしれない。1つのまち、東近江市としてのまちづくりというところでは、しっかり合意形成をし、きちんと説明責任を果たす。

これは実はこっちにもつながるのですが、不十分なところ、重なっているところはお許しくださいね。課題や足りないものは何かということ、やっぱり議論しようといっても議論するものがないと議論のしようがありませんから、それが何かというのは、委員さんがおっしゃったように、何が足りないか。あるいは地域の課題でどんなことが起きているかということに対して、市と市民の間で、市と市民でどちらが何を、できるか、どちらが何をすべきか。その役割分担は何で、お互いができることはどの程度のだろうと、一緒にやれるところはどの程度のだろうというふうに、実践につながっていくようなまちづくりのあり方なのかなと。

地域でやれることは地域で住民がやるけれども、それは逆に丸投げではなく、互いの責任を果たせる関係をつくっていく、そしておそらく、じゃあ何を地域でやるのかということ、地域ごとで違うし、時代ごとにも違うだろうというところは、やはり今後もしっかり合意形成と説明責任でつくっていくこと。

市と市民の間、あるいは市民と市民の間でお互いに伝えていくこと。できるだけ、いろいろな仕組みとか、まちづくりの形とかを伝えていくことだという話がありました。

それは人材育成とも関わるのですけれども、その継承していく、あるいは自分たちが新しいものを行ったときに伝えていくということだと思いますし、特に市と市民の間で伝えるというところで、ご指摘にあった「伝わる言葉」で伝えること。行政の既存の用法ということだけでなく、伝わる言葉で伝えることというのが必要なのだとすることが大事だと思いますので、書かせていただきました。

そういったのは、たぶんこれまでとは違う台本のない審議会だとか、委員会だとか、計画づくりというところも、その機会になるだろうということになると思いますし、コミュニケーションをとるといふようなフレーズがありましたけれども、コミュニケーションというフレーズがありますけれども、それを意識的につくっていくと、努力ですね。あえて時間を超える努力です。

1市になっていくには時間がかかりますけれども、その時間を超えるものがあるとすれば、それはやっぱりそういった意識的にこういうことを積み重ねていくという努力である。

もう1つは、1つでみんなが関わるまちづくりのキャッチフレーズが要るのじゃないかと話も、ご意見もありました。それは

キャッチフレーズという言い方もできますし、もう少し深い言い方をしますと、政治哲学という言い方。

これらのことや課題、課題をめぐる議論や会話や実践というのが東近江市をつくるということなのかなというふうにまとめていいのかなというふうに、これでいいと思いましたので、一応？マークをつけておきました。外してよければ外したいというふうに思います。

ということで、ちょっとこのまとめるまで時間がかかってしまいましたのですが、こういうまとめ方でいいか。あるいは、こういうまとめ方で、だいたいこんな十分に議論を尽くせていないというところもあるかと、短時間なのであるかと思いますが、こういうまとめでだいたいいいなと思う人は、この委員会に関わった感想とか、こういうまとめ方で、もう少しこうした方がいいなと思う方は、それを言っていたら、だいたい1分ずつぐらい言っていただくと、きっと事務局が安心して印刷できる。事務局さんの手元を見ていただくと、ご自身が使いやすいキーボードをわざわざ持ってきて、ノートパソコンにつないでガシガシ打っているという状態ですので、そのご努力にお応えするのですが、1分ぐらいずつで、皆さん、閉めのコメントをいただきたいと思います。この委員会の感想でも、こういうまとめでいいかということでも、何でもけっこうです。一言ずついただければと思います。いかがですか、どなたからでも。

#### (委員)

私がコミュニケーションという方向論を言うのは、ずっとこの委員会に参加させていただいて、まったくの素人で、市の職員の方がいろいろな意味で必死に努力されて、何とかという姿勢をヒシヒシと感じたものですから、それを、何とこのか、やはり言葉でもって伝えないと、伝わりやすい言葉でもって伝えないと、こんな言葉はあれなのですけれども、損をしているというのか、1つにまとまるものもまとまらないし、だから国が使っている行政用語とか何とかいうものを、なんか自分たちの力で、やさしい言葉とか、いろいろなわかりやすい言葉に置き換えて、できればキャッチフレーズも委員が言われたように、キャッチフレーズというのは存外大きいのですよね。1つにパッとまとまってしまう。

例えば、私がどなたかに「あそこの窓を開けてくれませんか」と、言葉というのはそれだけ動かす力があるものですから、これを職員の方で無知だったら、客観的な機関で持って、ああこれだったらこうやって伝えた方がわかりやすいのじゃないというように素人考えでも、そういうのを広告会社とかなんとかいうのは持っていますので、そういう場合にして、1つにしたいということ言う。

そうするとやはり、市民からの反応もかなり違ってくるのじゃないかなという感じがします。だから、それで先に言うコミュニケーションというのは、そういう中でジワッと市長の考えとか、そういうものを染み込ませていってもいいかというような感じで言った、盛んに言う訳ですので。

(委員長)

うまく言えなくて損しているとか、本当はこんなにがんばっているのに、それが伝わってこずに損をしているような。

(委員)

まんがを読むなどは言わないですけども、そういうことも必要じゃないかなという。だから、そういうことを思い切ってやってもらいたいですね。既存の、そんな行政用語というのは何百年と続いてきたのだろうか、それを何とかやさしく外して、何でも言葉でしていくという、文章にしていくという、やはり努力も是非していただきたいというような気がいたします。そういう意味です。

(委員長)

ありがとうございました。続いてどうぞ。

(委員)

いろいろさっきからお話を聞かせていただいて、やっぱり1つ思ったことは、文化と今の人づくりの問題と生きがいという問題の関係の中で、今回のマニフェストの中では、あまり議論なかったんですけども、やはり若い人から老人までの生涯学習というか、好き好きで個人がやるという話じゃなしに、やっぱり生涯学習というものの拠点というものは、これから大きくなった地域の中では、改めて必要じゃないのかなと。それはやっぱり行政が責任を持って、そういうものの方向性というものを出していくことによって、1つの大きい東近江市にまとまってくる1つの早道じゃないのかなという感じがいたしました。

(委員長)

ありがとうございました。

(委員)

長々というのはおかしいですけども、とにかく東近江市を1つにまとめるというのを、みんなの心の中に、東近江市で自慢のできるものをたくさんつくっていくということが必要じゃないかなと思うのです。これから大きくなっていく子どもたちも、よそへ出て、僕の住んでいた東近江市はこんなものがあると、例えば、お土産ものでもいいです、とてもおいしいものがありますということでもいいです。自慢のできるものを、みんなの英知を集めてつくるというのも、大切じゃないかなと思います。

それと、1つにまとめていくというのは、行政の仕事として、1つの町と隣町と共通するものが絶対にあるはずなのです。従来からずっとやってきて、あそこの村とうちのところとは、ここここは同じことだと、例えば、祭りのときのご馳走でも、同じものがあるやないかというようなことであれば、それを1つの特産品にまとめていってあげるという、結びつける役割、お互いが同じことをやっていたのだなというようなことを、まとめていくという役割も、行政として必要じゃないかなというように思います。

それと、最後、ばかの1つ覚え、「文化とは心の形」ということですから、マナーから何から全部かかってくるのです。文化を高めるとするのは、心の形をまとめていく、高めていくということですから、これはやっぱり中心に置いてほしいなと僕はいつも思っています。

(委員長)

行政に言われたくないですか、心の形とか。でも地域でということですか。

(委員)

そういうようなことを、例えば、具体的に申しますと、これは書いてもらわなくていいです。

公民館とかでカルチャーをやっていますが、本当に1年で終わって、次もレベル上がらないのです。次の年は違う先生を呼んできてレベルをあげていこうかというのじゃないのです。次の年も同じことをやっているのです。ですから、それでは文化も何も高まらない。芸術は高まりますわね。いわゆるマナー教室でも同じことをやっているのです。ずっといつも同じこと。万年ノート。

ですから、やはり高めていくというスパイラルアップということですか、そういうようなことがやっぱり必要じゃないかなというふうに思います。これは行政も市民にも全部に必要なことだと、私はかねがね思っています。

(委員長)

経験を何か経験として、同じ経験をしても、また次につながるというところに、担当者が代わると、これまで一緒に培ったものが迷ってまたスパイラルが増すということはあったりして。すみません、私が変なチャチャを入れてしまって、失礼いたしました。ありがとうございました。次に、私軽くていいわという人どんどん軽めに、せっかくですから。

(委員)

この前、障がい者の親の会の3月の総会で、東近江市に一応30人ぐらい女性ばかり集まったのですけれども、その中で、市長さんの名前を知っていたのが、西澤久夫さんというフルネームを知っていたのは、たぶん1人か2人かいなかったと思う。

それで旧の、先ほど委員が言われた12万人都市のバリアフリーをとるという、旧の前の能登川町だったら、たぶん前は町長さんの名前ほとんどご存知だったと思うのですけれども、今、東近江市でこの間総会をしたときに、市長さん誰？という感じで、それで福祉部長誰？誰も知らない。みんな知らない。知らない。マニフェストも何も聞いたことがない。

ここで初めて私はマニフェストを聞いたというのは、選挙のときの、原点に戻るマニフェスト。誰も聞いたことがない、そんなもの知らない。私にここには来ていること、そんなこと聞いたこともない。それこそ市長さんの名前を知らない。希望都市という言葉も知らない。

だから、その辺でやっぱり 12 万人都市が早く 1 つになるというのが、市長さんの考えとか、先ほど言われたように、言葉をもっとやさしく、マニフェストも難しい言葉じゃなくて、私は市長ですというのを、もっとボンと、誰にでもわかるように、子どもにまで、市長さんってどんな人か、誰も知らない。フルネームなんてとんでもない、名前とか、それが普通の市民じゃなくて、たまたま子どもが障がいを持っている親でも知らないのです。やっぱり少しでも行政に本当は訴えにいかないんだめな親にでも、市長さんの名前を知らないのですよ。そうしたら、まして普通の市民、何を会議しているか、全然市長さん、知ったことじゃないと。誰やったと。

もう本当ががっくりきたのですけれども、やっぱり大きな、12 万人が 1 つになるというのは大変なことだけれども、やっぱり早くに先ほど言われたように、もっとわかるというか、今のこんな時代に、インターネットの時代に、世界中のニュースは今日あったことなんかネット見たらすぐわかる。

それなのに、八日市の人は知っている、旧の永源寺の町長さんは知っている。でも東近江市の市長なんて知らないという、それもおかしい問題というか、何か私はそのときハッと思いましたから、やっぱりこれは何か早くキャッチフレーズが何か知らなくてすけれども、もっともっとわかりやすく下におろしていつてもらわないと、誰も関心が。ここに来てくださっている人らはたぶん関心がある方と思うのですけれども、そういうものに関わらない人は全然関心がない。だんだんそれが大きくなればなるほど薄れていく。それは怖いことだと思うので、ちょっとどうしたらいいのかわからないのですけれども、市長さんの名前ぐらいわかるような何かそういうことをしてほしいなと思いました。

(委員長)

テストの答案に教員の名前を書くところがあるのですが、毎年試験をやると、必ず試験場で、「先生、名前なんでしたか」と聞く学生もいるのです。

地域に関わる、町に関わる、地続きのどこかで首長の名前

(委員)

市長さん、副市長さんも今いらっしゃるのですよね。助役さんとかいらっしゃるのか、いらっしゃらないのか、私もそこはわからないのですけれども。

(委員長)

林さんが福町長。

(委員)

ああそうですか。収入役はもうなくなりましたのですよね。もうそこら辺で、誰もたぶん、普通の一般の市民の方だったら、文書とか読まない人だったら知らないと思いますけれどもね。その辺がもっとやっぱり普通の人には何かわかるような、早く名前も覚えてもらないと、やっぱり政治ができないと思いますけれども。

(委員長)

それは大事な論点として、今日夜お伝えしておきます。ほかに、そろそろ 4 時半ですので、急ぎ目をお願いします。

委員： 共通の東近江市ということで、JC 時代、まちづくりをやっているときのキーワードで「誇りうるふるさと八日市」というので、今もまちづくりに関わるときに、いつも子どもらにどのような心のふるさをつくっていかけるかということが、大事だということで、自分なりにいつもそういうように人に教える。そろそろ東近江市も子どもらに対して、本当に誇れるふるさと東近江市にならなければならないので、そういうふうなアクションが目に見えてあってもいいのじゃないかなというように思います。

そのためには、市民との協働、市民と行政の協働のあり方というのは、何か活動をしていてよくわからないので、逆に駅前再開発があったときは、うちの父親とか市の職員さんとか、平和堂とほとんど毎日 24 時間一緒にいながら活動していて、もう協働なんか当たり前みたいになってた。逆に今はそれが何か、我々はこちらまでします、あなたはここから先やってみてというような、何か分業になってしまっていて、ジグソーパズルをつくっているような気になってきている。

逆に後退しているような気もあるので、そういう意味でいうと、ちゃんとした市民との協働、行政との協働のあり方の見本というお手本というか、そんなものをつくっていただけたらなと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。ここまで書く必要はないかなと思うのですけれども。いろいろ提案いただいたことをスピード感をもってというか、時間を決めてやっていかないといけないと思うと同時に、やっぱり 50 年後、500 年後の東近江市のことを考えて、今何をしなければいけないかという大きな目でも考えておかないといけないかなと思っています。

(策定員)

せっかくこういう委員会でやってきたことを、ただ報告して終わりではなくて、継続していくことが大事だとさっきおっしゃったとおり、今後も見守り隊とか、サポート隊じゃないですけれども、何かそういうものを立ち上げて、こういうことで悩んでいるから、ここにこういう人が行って説明してあげようとか、このことはだいたいちゃんとできてきたねとか、なんか評価とか、次につなげていくようなグループがあったらおもしろいのと違うかななど。今も特に地域の女性なんかは、行動力はありますし、子どもを通して地域のつながりもすごくありますし、健康でもなんでも興味というか、いっぱいいろいろなネットワークを持っているので、そういう人で各 1 市 6 町のところにそういうグループがあって、常にそういう情報交換ができて、私のところではこんなのをやっているよと、こういう行政の地域の見守り隊みたいなもの

ができればいいなど、聞いていて思いました。

(委員長)

見守り隊ですね。

(策定員)

先日、すごく僕が苦手と思っている人と話さないといけないことがあって、しゃべってみると、すごく共感を得て仲良くなってしまったのです。何かあと圧倒的に不足しているのは、やっぱり対話なんかという気がします。ネット時代だからだと思うのですけれども、やはり対話、行政の中でも職員同士でも、職員と市民と、市民の間同士でも、対話をやっぱり増やして行って、共感が生まれて、その中でこの計画が着実に進んでいくことを望みたいなというふうに思っています。

(委員長)

本音を話ができる関係になるかどうかというのが1つのポイントですね。共感。

今掘委員：先ほどからの繰り返しになりますけれども、大きなキーワード、東近江市1つという話ですけれども、いろいろな住民の皆さんの努力が必要ですが、まず、市の行政に携わっていただく職員さんが、そのことを常に念頭において、それぞれご自身がなさっておる仕事の中で、それをしていくにはどうしたらいいかということの味付けというか、工夫というか、そういうことを常で考えていただきながら、まず仕事をしていただけるということが一番大事なかなと思います。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。

(策定員)

今、ちょっとコミュニケーションの話も出たのですけれども、いろいろな会議に出ささせていただいたのですけれども、なかなかやっぱり時間的なこととか、予算的なことがあって、このように市民の皆さんと議論する回数もほかの会とかは限られたりしますので、なかなかこうやって充実した会議はなかったもので、こういうふうに時間をかけることもある意味ちょっと大変いいことかなと感じました。

それと、行政の方の無限という面では、やっぱり今まで組織が小さい中で合併せずにやってきたら、やっぱりトップダウンというのが多くて、それはそれで意味があったかと思うのですけれども、組織が大きくなったら、いくら市長が熱い思いを持っておられても、下に伝わっていかないので、それを伝えるための仕組みというのがすごく大事なので、市長プラスαで、その次になる人なのか、そのまた次になる人なのか、わからないですけれども、そういう仕組みというのは、やっぱり実現していくうえでは大事

かなと思っております。

(委員長)

何か気持ちでは連携しようと、なかなかそれができるあれがないと言われますね。

(策定員)

皆さんとお知り合いになれて光栄でした。

(委員長)

こういうタイプの審議会は、やる方も大変という、本当に皆さんの議論でまとめていただきました。本当にいいものができました。それだけ議論したほか、策定員の皆さんも伝えていただいて、今後に活かしていきたいなとおっしゃってくださった方も何人もおられますので、ともに、いろいろな意味で今後にかかしていただきたいと思います。

本当に、皆さん それでは、議論のところは一回閉めまして、最後にこれを、今打っていただいているのをちょっと見て、印刷してもらって、確認して、それを市長にお渡しして、終了ということにしたいと思います。

(進呈)

(委員長)

平成21年7月15日、諮問がございました希望都市づくり行動計画について、委員会で慎重に、また活発に審議を重ねてまいりました。別添のとおり行動計画にとりまとめましたので、本日お渡しさせていただきます。

東近江市民の皆さんの暮らしが輝く希望都市づくりの実現に向けて、議会、市民また市長のイニチアチブで実現されていくことを、座長としてお願い申し上げます。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

(拍手)

市長：楽しみにしていました。ありがとうございます。